

ちばだい プレス

CHIBADAI
PRESS

千葉大学
広報誌

2019

VOL.

47

SPRING



特集

対談 朝日新聞社 代表取締役社長 渡辺雅隆 × 千葉大学長 徳久剛史

新しい時代を担う 学生たちに向けて

もう一つの専門にチャレンジ！
全学共通教育プログラム・
大学院グローバルプログラム

学生生活サポート MAP



CHIBA UNIVERSITY

創立70年という節目の新年度のスタートにあたって、
千葉大学OBの渡辺雅隆・朝日新聞社代表取締役社長を

ゲストに迎え、大学時代の思い出や社会から
求められる人材など、幅広いテーマについて、
徳久剛史学長と語り合っていました。



(とくひさ・たけし)
1973年、千葉大学医学部卒業。
千葉大学医学部助手、神戸大学
医学部教授、千葉大学医学部教
授を経て、2014年、千葉大学長に
就任。専門は免疫学、医学博士。

徳久剛史

千葉大学長

特集

対談

新しい時代を担う 学生たちに向けて



(わたなべ・まさたか)
1982年、千葉大学人文学部卒業、朝
日新聞社入社。大阪本社での現場記
者を経て、社会部長、編集局長などを
歴任。2013年に取締役、2014年、朝
日新聞社の代表取締役社長に就任。

渡辺雅隆

朝日新聞社
代表取締役社長

朝日新聞社入社のかっけは
アルバイト

徳久 渡辺さんは千葉大学人文学部の法
経学科（現在は法政経学部）のご出身で
すね。もともと法律を志しておられたの
ですか。

渡辺 ええ、映画やテレビドラマで活躍
する弁護士に憧れて法経学科を選びまし
た。入学してすぐに薬法会（千葉大学法
律研究会）にも所属し、法律の勉強もも
ちろんしていたのですが…。

徳久 実際には弁護士ではなく、朝日新
聞社の新聞記者になられ、今は代表取締
役社長を務められていますね。どのよう
な経緯で法曹からジャーナリズムに「方針
転換」されたのか、とても興味をそそら
れます。

渡辺 学費の足しに、入学直後から朝日
新聞社の千葉総局（当時は支局）でアル
バイトをしていたのですが、そこでの経験
を通して新聞記者という仕事に惹かれてい
きました。最初は世論調査をやっていたの
ですが、当時はアンケート対象世帯に行っ
て対面式で聞き取るんです。世論調査とい
うと無味乾燥なもののように思っていま
いがちですが、その向こう側にはこうした
生身の人間がいて、こんないろいろな考え
があるんだということに気づかされたん
です。

徳久 その先に生身の人間がいるというの
は、法律にも共通することですよね。も
ともと人間に興味があったのでしょうか。

渡辺 そういう面はあったのかもしれない
ですね。結局、朝日新聞社でのアルバイトは
大学4年間続けたのですが、3年目ごろ
からは取材のアシスタントをやらせていた
だけのようになり、報道という仕事の面
白味や醍醐味に目覚めていきました。こ
れは自分の天職だと思い、就職試験も朝
日新聞社しか受けなかったんです。結果
的には落ちてしまい、大阪本社の二次募
集で何とか滑り込んだんです。

徳久 受けたのは朝日新聞社だけだったの
ですか、それは思い切りましたね（笑）。
普通は他の新聞社も受けるものだと思う
のですが、朝日新聞社にこだわったのはな
ぜですか。

渡辺 もともと言論の場としての機能を
持ったリベラルな新聞だというイメージが
あったからです。加えて、実際に自分がア
ルバイトとしてかかわってみて、働いている
記者たちの姿勢や人間性に魅了されたの
が大きかったと思います。

徳久 なるほど、渡辺さんにとっては、ア
ルバイト期間がインターンシップとしてう
まく機能したんですね。

海外留学を通じて
多様性や行動力が身に付く

徳久 今は社長になられて、今度は採用
する立場になりましたが、採用で重視
している点がありますか。

渡辺 私がいちばん大事だと思うのはコ
ミュニケーション力です。新聞記者というの
は、知識や教養はもちろん必要ですが、



あらゆる分野に精通できるようなスーパーマンなどいません。例えば、文系出身の記者が科学に関する記事を書くこともありませんが、これは科学を専門的に理解しているわけではなく、取材相手の話をしっかり聞いて、それをわかりやすく伝えることができるということなんです。

徳久 コミュニケーション力は、どんな仕事にも共通して重要ですね。千葉大学でも、あらゆる場で活躍できる人材の育成を目指して、ディスカッションやワークショップ方式の教育を拡充しています。それに関連してもう一つ、大きなカギとなるのは多様性ではないかと思っています。

渡辺 千葉大学がグローバル教育に力を入れているのは、そのあたりの狙いがあるのでしょうか。

徳久 まさにおっしゃる通りで、多様な文化に触れて広い視野を持つてほしいという意図で、全学共通の国際日本学という科目を必修としたり、国際教養学部を新設したりといった取り組みを行っています。

渡辺 2020年度入学者からは海外留学の必修化（※）も予定されているそうですね。基礎研究と応用研究のようにも思えますね。近年は、国際会議の開催などにも注力されていますが、これも課題解決模索型報道の二環として取り組まれているのですか。

渡辺 そうです。一例を挙げると、国連が2030年までに達成を目指す「SDGs（持続可能な開発目標）」に賛同し、特集記事を発信したり、ときには関係省庁や企業も交えてシンポジウムを開催したりしています。また、学生を招いて記者と一緒に課題解決についてディスカッションするイベントもあります。そういう場に参加してくる学生を見ると、彼ら自身がやってきた研究や経験をどうやって課題解決に結びつけようかという関心はかなり高いと感じます。

徳久 私は大学の学長をやっているのですが、どうしても学生を厳しい目で見てしまうのですが、課題解決への意識が強い学生が多いというのは嬉しいですね。千葉大学もそういう学生の育成にもっと力を入れないといけないと思います。

より良い社会を目指すという点が報道と研究の共通点

徳久 ところで、以前から知っていたのですが、新聞記者にとってスクープというのはやはりいのですか。

渡辺 もちろんやりがいですが、でも、それは他社に先んじたからという単純なことではなく、スクープによって、これまでは認識されていなかった課題にスポットライトが当たり、結果として社会がより良くなる。

ですね。グローバルを意識した取り組みの成果はいかがですか。

徳久 国際教養学部新設の認可が下りて、いざ募集してみたところ、予想以上の志望者がいて、しかも語学に熱心な学生が多い。やはり国際化をうたった学部には、ちゃんと海外志向の学生が集まってくるんだなと実感しました。海外留学も、全学に先駆けて国際教養学部で必修化しましたが、実際に海外に行くとくると目の色が違います。全学必修化を決めたのもその成果があったからこそです。

渡辺 いろいろな経験を積むというのは、行動することのハードルも下げてくれると思います。新聞記者などは、いざとなれば海外でも地方でも行かないといけませんから、外に意識が向いている人材、すぐに行



できるからなんです。これは新聞記者にとって、大きなモチベーションになります。

徳久 なぜ今の質問をしたかという点、先ほども少し触れましたが、報道と研究は似ていると感じたからなんです。研究者も新しいことを発見すると論文を発表しますが、これは言ってみればスクープなんです。医学であれば、新しい治療法だったり、創業につながるような成果だったり、社会を変革する可能性があるという意味



発見すると論文を発表しますが、これは言ってみればスクープなんです。医学であれば、新しい治療法だったり、創業につながるような成果だったり、社会を変革する可能性があるという意味

動できる人材は、ぜひ朝日新聞社に入社していただきたいですね。

コミュニケーション力はどんな仕事にも共通して重要。多様な文化に触れて広い視野を持ってほしい

人間力を磨くために、自分からアクティブに動くという意識を持ってもらえたら嬉しいです。また、総合大学として様々な学部の学生が在籍しているので、積極的に他学部の学生と交流して多様な価値観を知ってください。

いろいろな経験を積むというのは、行動することのハードルも下げてくれると思います

新聞の良いところの1つには、紙面を広げて偶然目に入った記事から次々に知見が広がる「知の散歩」ができる点があります。大学で様々な経験をして人間力を磨くとともに、ぜひ新聞を通して社会の動きにも関心を持ってください。

ジャーナリズムの新しいキーワードは課題解決

徳久 せっかく渡辺さんをお招きしているので、ジャーナリズムの役割や朝日新聞社の取り組みといった点についてもお話を伺えればと思います。

渡辺 新聞の基本は、社会の課題を見つけて、それを伝えるという点にあると思います。社会のひずみというのは弱いところに出るので、新聞が社会の課題を報じるというのは、弱者の側に立つということなんです。それから、ジャーナリズムは権力を監視すると言いますが、これは権力と敵対しようというのではなく、あくまで社会をより良くしたい、不条理をなくしたい、不公平を是正したいという思いが大きいんです。

徳久 社会をより良くするためには、どのような姿勢で報道に取り組むことが必要なのでしょう。

渡辺 朝日新聞社では、2016年から「ともに考え、ともにつくる」という企業理念を掲げています。新聞報道では、丹念な取材をもとに社会の課題を掘り起こす「調査報道」が基本にあるのですが、これに加えて、解決策を模索・発信する「ソリューション・ジャーナリズム（課題解決模索型報道）」にも力を入れています。この両輪があって初めて、質の高い報道になると私は考えています。

徳久 調査報道とソリューション・ジャーナリズムの関係は、研究に例えれば基本

がスクープになるような事実を話してくれるのは、記者が一人の人間として信頼されているからこそです。記者本人だけでなく、朝日新聞社としても社会の信頼を得ていかなければいけないと肝に銘じています。

徳久 最後に、朝日新聞社のこれからについてお聞かせください。

渡辺 朝日新聞に限らず、新聞の部数が減少傾向にあるなか、従来の紙のメディアだけにこだわるのではなく、柔軟に変わっていかなければいけないと思っています。朝日新聞社の企業グループには出版社やテレビ局もありますし、先ほど紹介したシンポジウムや文化イベントなども開催しています。もちろんデジタルメディア対応も進んでいます。こうした様々なチャネルを通して確度の高い情報を発信する総合メディア企業を目指していきたいと考えています。

徳久 大変貴重なお話を伺えました。千葉大学の学生にも、将来メディアにかかわる仕事をした学生は多いと思うので参考になったのではないかと思います。個人的には、社会貢献という点で研究と報道に共通点があるというのは興味深い発見でした。千葉大学も2019年は70周年の年です。2020年度からは全学で海外留学が必修化するなど、変革を継続していきたいと思っています。

渡辺 OBとして期待しています。千葉大学で学んだ学生が朝日新聞社に入社して活躍してくれるのを楽しみにしています。

徳久 本日はありがとうございました。

自分の専攻 + 地域課題を解決!

地域の中の課題や問題にはどのようなものがあり、どのような解決事例があるかなど、地域の課題を具体的に解決する力を身に付けるために必要な基本的な考え方を学び、あらゆる立場から地域再生のために活躍できる人材を育成するサーティフィケートプログラムです。

普遍教育科目

地域と暮らし
(地域コア)

講義・体験型
科目

PBL・実習型
科目

地域と地域再生の基礎・理論、スキル、体験を学ぶ



専門教育科目

所属学部・他学部の指定する専門教育科目

・修了要件：23単位
※定められた単位を修得した学生に対して「履修証明書」を発行します。

自分の専攻 + 地域産業を振興!

地域産業の課題や展望はどのようなものか、それらに新しい価値を付けて産業振興するにはどのようなアプローチが考えられるかなどを学び、あらゆる立場から地域産業をイノベーションする人材を育成する副専攻(マイナー)プログラムです。

普遍教育科目

地域と暮らし
(地域コア)

講義・体験型
科目

PBL・実習型
科目

地域づくり、地域産業、イノベーションの
基礎・理論、スキル、体験を学ぶ



専門教育科目

所属学部・他学部の指定する専門教育科目

・修了要件：30単位
※定められた単位を修得した学生に対して「修了証」を発行します。

大学院グローバルプログラム — 大学院でも+α! —

大学院国際実践教育

大学院国際実践教育は、実践学習・海外学生との協働学習・複数の分野にまたがる混合型の専門教育を通して、将来グローバルに活躍できる高度な実践型人材を育成することを目的とした大学院グローバルプログラムです。指定科目を主専攻の修了要件単位以外で所定の要件に基づき履修することで、単位数に応じて修了証書あるいは履修証明書が取得できます。

所属課程における
大学院専門教育
(大学院課程の
修了要件)

大学院専門教育の修了要件以外で履修する+αのプロジェクト

大学院国際
実践教育

8単位
or
4~7単位

修了
履修証明書
取得

履修学生の声

ひらた けんた
平田 兼都さん 教育学部中学校教員養成課程理科教育分野

コミュニティ再生ケア学の指定科目である「地域NPO活動体験」で、地域の中に入って活動することの楽しさややりがいを知り、もっとその分野について学びたいと考え履修を決めました。主専攻の授業の課題やアルバイト等をしながら、千葉市からは少し離れた地域に行って活動を行うというのは少し体力のいるものでしたが、都市部では感じられない空気を感じたり、非日常的な体験ができたりしてリフレッシュにもなりました。少し大変だと感じても根気よく活動に参加してみると気持ちも変わってくると思います。地域再生や地域が抱える課題などについての知識はほとんどなかったのですが、指定科目に沿って履修を進めると、自然とそういった知識が身に付いていくのを感じて、自信につながりました。



土気地区を中心に地域の活性化を目指す「土気NGO」の古民家オフィスの利用方法について、NGOの方々や学生がアイデアを出しているところです。オフィスの改修に関わったり、土気地区で採れた野菜を皆で食べたりもしました。

履修学生の声

つのだ しおり
角田 詩織さん 文学部日本文化学科

地域にあるものを活かした取り組みに興味があり、実践的なスキルを身に付けるため地域産業イノベーション学を履修することに。実際にその地域を生活圏としている方や、自分とは違った経歴の方と関わることで、自分では絶対に思いつかない視点や発想を得られる経験ができたことと、履修しなければ触れることがなかったであろう専門外の領域も学ぶことができ、視野が格段に広がりました。学生だからこそこできること、その土地で生活しているからこそできることがあると実感し、こういった連携を自分の地元で活かせる仕事をしたいと考えるようになりました。ビジネスの視点から地域産業を学ぶことができ、将来の仕事でも活かせるような考え方を多く学べるプログラムだと思います。



実際にその土地に行き、話を聞くだけでは分からなかった魅力を自分の目で発見したことが面白い経験でした。長柄町で見つけた蕎麦畑の景色や人々のつながりが強く印象に残っています。

特集 もう一つの専門にチャレンジ!

全学共通教育プログラム・大学院グローバルプログラム

全学共通教育プログラムとは?

専門分野+αの学び

「全学共通教育プログラム」とは、自分の専攻にプラスして、もう一つの専門性を身に付ける教育プログラムです。社会で活躍できる人材になるために、「国際日本学」「コミュニティ再生ケア学」「地域産業イノベーション学」の3つのプログラムそれぞれに体系的なカリキュラムが組まれています。ここで得た+αの学びを自身の強みとして、進路を考えるヒントにしたり、就職・進学の際にアピールポイントとして活かすことができます。

修了証書あるいは履修証明書の取得

大学を卒業する際には、専門分野での学びの成果として学位が得られます。それと同じように、全学共通教育プログラムでは、所定の要件に応じて単位を修得した方に、修了証書や履修証明書を発行しています。これは学位ではないのですが、「各プログラムで、国際社会や地域社会で活躍するリーダーとしての素養を身に付けた」ということを千葉大学が証明するものです。

国際日本学

自分の専攻 + グローバル社会で活躍!

日本文化や異文化への理解を深め、将来、グローバル人材として各方面で活躍するために必要となる知識や技能、経験をバランスよく身に付けることができます。

01

ゲートウェイ

異文化の理解や
日本文化の
再認識

02

イングリッシュ
コミュニケーション

英語でのコミュ
ニケーション力
を強化

03

留学

数々の留学プロ
グラムで海外へ

04

国際体験

国内外でのイン
ターンシップや
ボランティア

・修了要件：30単位
(2015年度以前入学者は48単位)

※国際日本学の修了要件を満たし、さらに「ゲートウェイ」区分を英語による科目のみで履修した場合に、国際日本学(グローバル・マイナー)を修了したことを証明する修了証書が取得できます。また、国際日本学の指定科目を、所定の履修要件に基づき18単位修得した場合に、国際日本学の履修証明書が取得できます。(いずれも2016年度入学者より適用)

履修学生の声

かまた さおり
鎌田 沙織さん
法政経学部法政経学科法学特進プログラム

入学の時から語学と法学を頑張ろうと心に決めていて、何か目標があったほうが意欲を貫けそうだったので、国際日本学を履修してみました。英語のスピーキングが苦手だったのですが、言いたいけどうまく言えないという悔しさを何度も経験して、少しずつ言葉が出てくるようになりました。今もまだまだですが、グループワークで発言できるようになって成長を感じました。授業が大変そう・難しそう・忙しい...などと思ったときも、あと少しで副専攻をとれるのだから頑張ろう、と乗り切りましたし、多くの国で様々な体験をしたり、いろいろな文化や考え方に感動したり、プログラムを通して得られたものは大きいです。



3年次の9月、フランスのラファイエット城敷地内にあった石壁の修復を、多国籍のチームで行いました。写真はフリーの日に行ったピクニックにて。田舎で何も無くすべてが団体行動で、チームの皆との対話を通していろいろなことを感じ、考えました。

「もっと知りたい!」「履修してみたい!」と思ったら

●全学共通教育プログラム合同ガイダンス

4/8月 12:10~12:40 アカデミック・リンク・センター(図書館)1階 プレゼンテーションスペース
国際日本学、コミュニティ再生ケア学、地域産業イノベーション学の各プログラムについて、制度概要やカリキュラムを説明します。

●各プログラムの詳細は履修案内・web をチェック!

国際日本学・大学院国際実践教育
Skipwise ウェブサイト
<https://skipwise.chiba-u.jp/>
コミュニティ再生ケア学・地域産業イノベーション学
千葉大学コミュニティ・イノベーションオフィス ウェブサイト
<http://cocp.chiba-u.jp/>



総合学生支援センター

5 ピア・サポート6団体「ふれあいの環」

OPEN 平日10:00~16:00
学生が学生を支援する活動を行う6団体により組織されています。学生と学生、学生と教職員が相互にふれあい、イベントなどを通じて総合的な人間力をゆっくりと身に付けていくための場所です。



西千葉キャンパスの、新生活をサポートする役立ち施設 & ウェブサイトをご紹介します。

学生生活サポート map



6 アクティブ・ラーニングゾーン

OPEN 平日8:30~20:00
可動式の机や椅子を整備しており、学生が授業の空き時間等を利用して、予習や復習、グループディスカッションなど、自由に利用できる空間になっています。また、予約制でプロジェクターやホワイトボード等の利用もできます。

学生支援プラザ



7 学生相談室

OPEN 平日9:00~17:15
学生の修学・進路・就職・生活・人間関係など、学生生活にかかわる問題について、なんでも相談できます。困ったとき、悩んだときは、お気軽に「学生相談室」にお越しください。

学生支援課

OPEN 平日8:30~17:15
サークル活動や課外活動、学生教育研究災害傷害保険に関する手続きや支援、授業料免除や奨学金、学生寮に関する相談や手続きの窓口です。

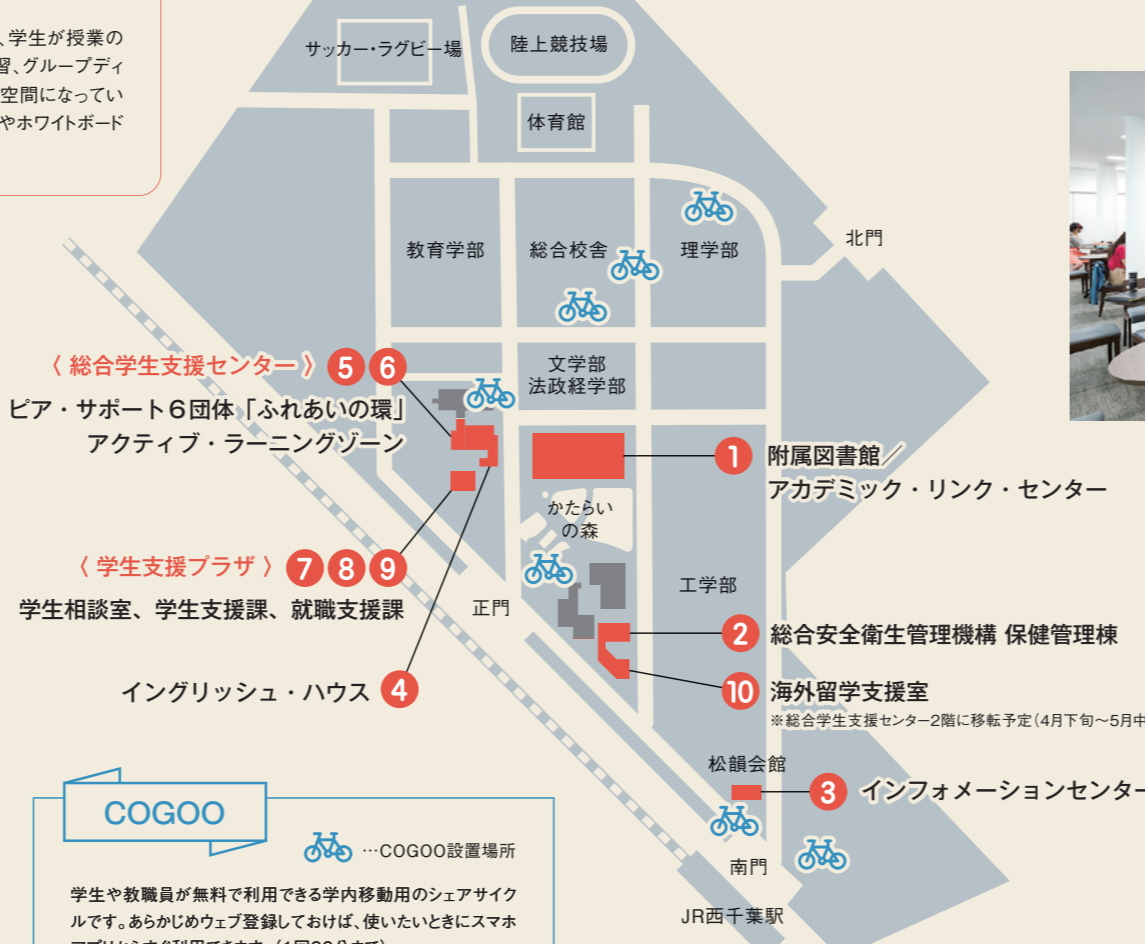


9 就職支援課

OPEN 平日8:30~17:15
資料の閲覧や就職活動に役立つ本の貸出、専門家によるキャリア相談も実施しています。また「ぜひ千葉大生を!」という企業からの求人情報は必見です。情報収集の場として、ぜひ活用してください。



<http://www.ss-chiba-u.jp/>



1

附属図書館 / アカデミック・リンク・センター

OPEN 平日8:30~22:30(授業期間)
土日祝10:30~18:00(授業期間)
※期間によって異なります。附属図書館ウェブサイトより最新の情報をご確認ください
附属図書館では新しい学びのコンセプト「アカデミック・リンク」のもと、グループ学習も独り学習もできる多様な学習空間、紙や電子のコンテンツ、学習相談デスク等のサポートを提供しています。

附属図書館
<https://www.ll.chiba-u.jp/>

アカデミック・リンク・センター
<https://alc.chiba-u.jp/>



2

総合安全衛生管理機構 保健管理棟

OPEN 平日8:30~17:15
学生・教職員の定期健康診断を行っているほかに、健康相談、メンタルヘルス相談、応急処置、病気の初期治療と外部医療機関の紹介、保健指導や健康教育を行っています。日々健康に生活を送れるようサポートしますのでお気軽にご相談ください。

<http://hschome-gw.hsc.chiba-u.jp/>



4

イングリッシュ・ハウス

OPEN 平日9:00~17:30
リラックスした雰囲気の中で言語に触れ、学ぶことができる場所です。教員によるレッスン、個別英会話、ランチチャット、また、パーティー等のイベントを通じて、国籍や学年、学部を越えた多くの人と交流できます。



3

インフォメーションセンター

OPEN 平日9:30~15:30
キャンパスの案内やイベント情報の公開、大学オリジナルグッズの販売などを行っています。松韻会館の1Fにあり、西千葉駅から徒歩3分の好立地。待ち合わせなどにご利用ください。



大学の最新情報はこちらを Check!

千葉大学公式Webサイト
www.chiba-u.ac.jp

千葉大学公式twitter
@Chiba_Univ_PR

千葉大学公式Facebook
<https://www.facebook.com/ChibaUnivPR/>

10

海外留学支援室

OPEN 平日9:00~17:00(相談受付 10:00~16:00)
千葉大学に在学したまま、協定校へ交換留学する派遣プログラムの他、様々な留学の相談と支援を行っています。留学体験談や関連の資料の閲覧もできます。留学を考えたなら、早めはやめの行動がおすすめ。ウェブサイトからも相談の予約が可能です。

<http://cie.chiba-u.ac.jp/sase/>



西千葉キャンパスの 玄関口にある建物の由来

もっと
知りたい
千葉大学



改装前の松韻会館(2015年8月撮影)。現在の外観はp.08の「インフォメーションセンター」の紹介にて掲載しています

南門を入ってすぐのY字路に立っている瀟洒な建物は、工学部の施設です。同学部の前身校に当たる「東京高等工芸学校」の創立40年記念会が1961年に開かれた際、記念館の設立計画が動き出し、1967年に完成。西千葉駅構内から続く松林の中に建てられたため、「松韻会館」と命名されました。2016年に改築、周辺整備がなされ、開放的な空間に生まれ変わりました。(国際教養学部 見城 悦治)

附属特別支援学校生徒による パラ競技体験会

INFORMATION



地域の皆様の協力のもと、生徒たち自ら運営を行いました

2019年2月21日、教育学部附属特別支援学校の生徒たちが、地域の方に向けたスポーツイベントを開催しました。イベントでは、ボッチャなどのパラスポーツを現役選手とともにプレーできる体験会のほか、生徒たちが考えたオリジナル競技での交流などが企画され、東京五輪音頭や手作りの記念品で参加者の皆様をおもてなししました。

全員留学！千葉大学 グローバル人材育成 "ENGINE" 始動

INFORMATION



2019年1月24日の"ENGINE"プラン発表記者会見にて

千葉大学は、グローバル人材育成戦略を更に拡大展開するプランとして「千葉大学グローバル人材育成「ENGINE」(Enhanced Network for Global Innovative Education)」を策定し、2020年度から新たに実施します。このプランでは、学部・大学院生の全員留学を目指して、留学プログラムや留学支援体制を強化するとともに、外国人教員の増員等による教育改革や留学中でも科目履修が継続できる教育環境整備等を行います。

ISO学生委員会15周年！ イベントとシンポジウムを開催

EVENT



Winter Fesでは、多くの企業の協力のもと、楽しみながらエコを学べる企画が揃いました

2019年2月11日、西千葉キャンパスにて環境ISO学生委員会が「Chiba Winter Fes 2019」を開催。里崎智也氏の講演をはじめ展示や飲食など様々な企画が揃い、600名の来場者で賑わいました。同日、環境ISO学生委員会15周年シンポジウムも開催。学生主体で環境マネジメントを運営する試みの先駆けとなった千葉大学のこれまでの取り組みについて報告するとともに、ゲストも交えパネルディスカッションを行いました。

世界最高の技術をもって社会に貢献します JFEスチール株式会社 郷田 理羽さん

OBOG MESSAGE

郷田 理羽 (ごうだ・りう)

2013年工学部機械工学科卒業、2015年3月大学院工学研究科人工システム科学専攻機械系コース修了。JFEスチール株式会社 東日本製鉄所 設備部 設備技術室所属。



▲製鉄所のシンボルである高炉の前で



▲郷田さんが扱っている設備

◀職場風景

大学では材料力学を専攻
2009年に工学部機械工学科に入学し、2013年に人工システム科学専攻機械系コースへと進学しました。材料力学の研究室に入り、レーザーを照射して金属板表面にある損傷を探索、画像化するという研究を行っていました。サークルは中学時代から続けていたバスケットボールサークルを選び、6年間続けました。

ダイナミックさと緻密さが組み合わさった「製鉄」
千葉大学大学院を2015年に修了し、同年4月にJFEスチールに入社しました。配属は東日本製鉄所(千葉地区)の設備部であり、鉄をつくっている設備を保全・建設するというような部署になります。私がある設備技術室では新しいニーズを

JFEスチール株式会社
<http://www.jfe-steel.co.jp/>

「鉄は産業のコメ」という言葉を聞いたことはあるでしょうか。すべての産業になくてはならない素材が鉄です。鉄はニーズに合わせた技術開発によって、常に時代の最先端を形成し、私たちの生活を進化させてきました。

JFEスチールは世界トップクラスの鉄鋼生産規模を持ち、「世界最高の技術をもって社会に貢献します」という企業理念の基、次代を担う独自性や機能性の高い鉄鋼商品・サービスを提供し、世界の素材産業をリードしています。

千葉大学
OBOG
50名以上
活躍中

西千葉キャンパスで 映画『チア男子!!』撮影

INFORMATION



©朝井リョウ/集英社・LET'S GO BREAKERS PROJECT

2019年5月10日公開の映画『チア男子!!』の撮影が西千葉キャンパスで行われました。原作は「桐島、部活やめるってよ」で知られる朝井リョウさんの青春小説で、大学チアリーディング界で初の男子チームを結成し、大舞台に挑戦していく大学生たちの青春ストーリーが描かれます。弥生通りやたらいの森、国際教養学部棟の中庭など、西千葉キャンパスの各所が映画に登場します。

日本学生科学賞 附属中の学生2名が入選1等

AWARD



徳久学長へ受賞報告を行いました(写真左が安藤さん、右が藤堂さん)

第62回日本学生科学賞の中学の部において、教育学部附属中学校2年の安藤帆南さんと、3年の藤堂博仁さんがそれぞれ入選1等を受賞しました。安藤さんは飛び込み競技における人間の姿勢と水しぶきの大きさの関係を、藤堂さんは災害時も自前で電力を調達して稼働するポータブル海水淡水化デバイスの開発をそれぞれ研究し、その成果が評価されました。

サイバー防犯へ貢献 千葉県警より感謝状

INFORMATION



感謝状を受け取る石井情報担当副学長

2019年1月8日、本学のサイバー防犯に関する諸活動が評価され、千葉県警より感謝状が授与されました。千葉県警をはじめとした産官学機関と締結しているサイバーセキュリティパートナーシップ協定に基づき、セキュリティ対策の共有、サイバー犯罪に関する捜査への協力、警察庁の研究への講師派遣、サイバーパトロール等の活動への学生参加など、様々な協力・支援を行っています。

学生・若手研究者のチャレンジを支え、未来を育てる 千葉大学 SEEDS 基金

千葉大学SEEDS基金は、ご寄附をもとに、学生の生活環境の整備、教育研究環境の整備、学生への奨学金の支援、国際交流事業の推進などを行っています。次世代を担う若者がより良いキャンパスライフを送れるよう、ご支援・ご協力をお願いいたします。



ホームページから寄附の申込みができます

詳しくは → <http://kikin.chiba-u.ac.jp>

INDEX

02 **対談** 朝日新聞社 代表取締役社長 渡辺雅隆 × 千葉大学長 徳久剛史 新しい時代を担う学生たちに向けて

千葉大学 OB の渡辺雅隆・朝日新聞社代表取締役社長をゲストに迎え、徳久剛史学長と語り合っていました



06 もう一つの専門にチャレンジ！ 全学共通教育プログラム・大学院グローバルプログラム

自分の専攻に、国際・地域の専門性をプラスしよう！学生の声を交えて紹介します



08 学生生活サポート MAP

新生活を多方面からサポートする西千葉キャンパス内の各施設を紹介

10 TOPICS / もっと知りたい千葉大学

ちばだいい プレス

CHIBADAI
PRESS



編集・発行 / 千葉大学 企画総務部 渉外企画課 広報室
〒263-8522 千葉市稲毛区弥生町1番33号
TEL: 043-251-1111(代表) E-mail: koho-hp@office.chiba-u.jp
ご意見・ご感想をお寄せください

www.chiba-u.ac.jp

[表紙 (左から)]

渡辺 雅隆 (わたなべ・まさたか)
朝日新聞社 代表取締役社長

徳久 剛史 (とくひさ・たけし)
千葉大学長



1982年に人文学部法経学科(現在は法政経学部)を卒業した渡辺社長。今号の特集では、徳久学長とのOB同士の対談が実現しました。卒業後、ジャーナリストとして強い信念を持ってキャリアを重ねてきた渡辺社長。徳久学長との対談から、「報道」と「研究」との共通点も見えてきました。これから大学で学ぶ皆さんへ、先輩からの力強いメッセージをお届けします。

(撮影: 朝日新聞社 東京本社 朝日浜離宮ホール)